



<春がやってきました・・啓蟄（けいちつ）の候>

「春をつげる」と言われている、佐世保市相浦愛宕地区に 450 年間伝わる「愛宕まつり」も終わりました。いよいよ春がそこまでやってきました。



写真：佐世保にも白木蓮が咲き始めました。

3 月 6 日は啓蟄（けいちつ）ですが、啓（けい）とは、「ひらく」の意。虫や動物が土の中などに隠れて冬籠もりをするという意味で、蟄伏（ちつぶく）していたものが、啓（ひら）かれる。春めいてくると、気候もどこか不安定になり、大風が吹き嵐になったりします。春によ

く見られる雷は「春雷（しゅんらい）」と呼ばれ、春の季語にもなっています。立春を過ぎてから初めて鳴る雷のことは、「初雷（はつらい）」。さらに「啓蟄」の頃によく大きな雷が鳴ることからも、昔の人は「虫出しの雷」と呼んでいました。時に雹（ひょう）を降らせるこの雷の合図にびっくりして、冬ごもりの虫や小動物たちが眠りから覚め、活動を始めると考えられていたようです。虫などが再び地上に姿を現し、活動を開始する所をさすのです。私たちも寒い冬が過ぎ、いよいよ春になります。居合道の稽古も本格的に活動を始めていきたいものです。

<居合道講習会・春季居合道級位審査会開催>

平成 29 年度居合道講習会及び春季居合道級位審査会を開催致します。

- 1 期 日 講習会：平成 30 年 3 月 25 日（日）10:00～16:00
審査会：平成 30 年 3 月 25 日（日）16:00～
- 2 会 場 小佐々スポーツセンター（佐世保市小佐々町黒石 523-1）
※西九州自動車道「佐々IC」を左折、小佐々、長串山方面に車で約 5 分
- 3 講 師 講習会：居合道七段・級審査員：（高木、濱本、川見、塩土）
- 4 内 容 (1)全剣連居合の解説と指導(2)基本、姿勢 (3)術技
- 5 携行品 全剣連居合道解説書 メモ帳 筆記（用具）

<居合道昇段審査会・春季居合講習会開催>

平成 30 年度居合道昇段審査会及び春季居合道講習会を開催致します。

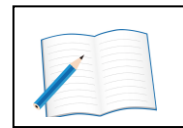
- 1 期 日 講習会：平成 30 年 4 月 1 日（日）10:00～12:00
審査会：平成 30 年 4 月 1 日（日）13:00～
- 2 会 場 大村市武道館（大村市西三城町 137 番地）
- 3 講 師 講習会：居合道七段
- 4 内 容 (1)全剣連居合の解説と指導(2)基本、姿勢 (3)術技

平成 29 年度第 2 回居合道理事会において居合道手帳の講習会特典、中央審査受審者の推薦、県剣道連盟剣道の推薦者について承認を経て、決定されましたので周知徹底をお願いいたします。

①居合道手帳の講習会特典について

◇居合道審査（初段～五段）筆記試験の考慮

- ・過去 1 年間で 5 回の講習会の内 3 回受講した者に筆記一部免除にする。
- ・問題 1（配点 50 点）居合道修業の目的等 全員実施
- ・問題 2・3（配点 25 点×2）全日本剣道連盟居合道着眼点・要領等（免除対象）



②中央審査受審者の推薦について

- ・県剣道連盟剣道の推薦者に準じて推薦をする決定。
- ・西日本地区講習会、特別講習会（全剣連後援居合道講習会）、中央講習会伝達講習会のうちいずれかを受講した者を推薦する。

平成 30 年度 居合道部（主な）年間事業計画及び行事予定

日 期	事 業 名	会 場	担 当
4 月 1 日(日)	春季居合道講習会並びに春季昇段審査会	大村市武道館(大村市)	県剣連
6 月 30 日(土)	第 1 回居合道委員会及び第 1 回理事会	大村市武道館(大村市)	居合道部
7 月 1 日(日)	第 48 回長崎県下居合道級別選手権大会	大村市武道館(大村市)	県剣連
7 月 7・8 日(土・日)	居合道西日本地区講習会	和歌山県和歌山市	全剣連
9 月 16 日(日)	居合道伝達講習会並びに級位審査会	大村市武道館(大村市)	県剣連
10 月 7 日(日)	秋季居合道講習会並びに秋季昇段審査会	大村市武道館(大村市)	県剣連
11 月 10 日(土)	居合道六・七段審査会(東京)	東京	全剣連
11 月 24・25 日(土・日)	全剣連後援居合道講習会	大村市武道館(大村市)	全剣連講師派遣
平成 30 年 1 月 27 日(日)	第 2 回居合道委員会及び第 2 回理事会	長崎県営野球場(大橋)	県剣連
平成 30 年 3 月 24 日(日)	居合道講習会並びに級位審査会	大村市武道館(大村市)	県居合道部

道場紹介(1)・・・静心会(上長崎剣志会・長崎市)

静心会(上長崎剣志会)では長崎市内の小学中学生に上長崎小学校体育館にて、居合道と剣道及び水泳の稽古をしています。これから居合道と剣道をはじめようかと考えている皆さん方、ぜひ上長崎剣志会のホームページ(下記に URL 表示)にて活動などをご覧ください。

静心会(上長崎剣志会)では、随時、塾生を募集しています。やってみたくて、続けられるか不安・・・とか、どんな感じで稽古をしているのか気になった方、興味のある方、ぜひ見学に行ってみてください。1 か月、体験入門できるシステムもあるそうですので、お気軽にご連絡ください。

ホームページ URL: <http://kenshikai.uijin.com/> <—長崎県剣道連盟(道場紹介)でも閲覧可



上長崎剣志会の皆さん

居合道稽古 ①

居合道稽古 ②

道場名	静心会(長崎)	
活動場所	上長崎小体育館(長崎市)	水、土曜日 19:00~20:30
練習内容	居合道 全日本剣道連盟制定居合 古流 無双直伝英信流	
	師範:石橋八郎 (居合道教士七段)	
連絡先①	〒850-0001 長崎市下西山町3-11 廣瀬 正祐(居合道錬士七段)	090-447-56021

特集(2)・・・鉄鍔(つば)のお話

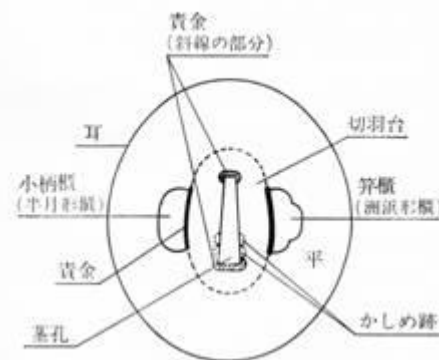
日本刀は武士の魂といわれ、相手を倒すための武器や護身を目的としていました。明治維新の廃刀令後は、刀剣の神秘的美しさから美術工芸品として高く評価されるようになりました。江戸時代になると政情が安定し、刀は武器ではなく、武士の象徴となっています。刀剣よりも鍔(つば)、小柄、鞘などの拵(こしらえ)の装飾が派手になりまじめました。

【鍔の種類により地金をかえる。】

鉄鍔もいろいろな種類があります。作る作品によって、当然材料も変わってきます。大きく分けると次の三通りになります。このうち最もよい地金を使うのは甲冑師とか尾張の鍔になります。京透しになると、その下のランクの地金を使います。京透しはあまり上等の地金を使うと、かえて古い時代の京透しらしい味わいが出ません。江戸期以降は地金のうち最もいいものを刀にして、その次のものを農工具や生活用の刃物に、さらに質の悪いものを金具や鍔に使っていたものと思われま。昔の職人は悪い地金を使っていかにうまくまとめるかに苦心したようです。現代では良い材料を使っても、昔の職人ほどうまくいかない場合が多いようです。古い時代の鉄鍔を再現するには、材料もまた古作と同じようなものを使う必要があります。砂鉄から踏鞴(たたら)でおろした玉鋼と、古鉄をおろしたものでまかない。古鉄をおろすのは原料として、江戸時代後期あたりに用いられた生活用具の鋸(のこぎり)、鉞(まさかり)鋏(くわ)、手斧(ちょうな)、鉋(かんな)などを使います。古物屋から集めた品を、ものに応じて小さく切って、炉に入れて溶かして塊にして良物のものなら、そのまま折返し鍛錬をします。

【鍔の製作工程】鍛錬→地金の磨き→構図の基本→下絵とケガキ→何十本もの鋸を使いタガネのあとを消す→肉取り・肉付け→仕上げ→銘切り→色上げ

鍔各部の名称



切羽台＝鍔の中央の点線で囲んだ小判形の部分で、鍔を刀に掛けた場合にこの部分で切羽と接するので切羽台という
茎孔＝切羽台の真中に空いている孔で、ここに刀の茎を通すので茎孔という。
櫃孔＝小柄櫃があり、小柄櫃は半月形に空けるのが通常である。
貴金＝切羽台の側に入れて調節をとる金属片を貴金といっている。
かしめ跡＝タガネ跡のことをかしめ跡といっている。